

種では影響なしとする報告が大部分であった。
 なお、薬剤が溶解しにくいとの指摘も一部場所
 から報告された。

以上の結果、本製品での実用化は困難と考え
 られ、継続?と判定した。

昭和47年度落葉果樹関係除草剤 生育調節剤試験成績概要

農林省果樹試験場企画連絡室 内田忠雄

昭和47年度落葉果樹関係の委託試験は除草
 剤5点、生育調節剤15点であり、これらにつ
 いて昭和47年12月に仮判定打ち合わせ会を
 東京近辺関係試験場担当官の参集のもとに行な

い、さらに47年1月に試験担当試験場関係官
 を集め、成績検討会および判定会議を行なった。
 その結果は別表のとおりである。

以下これらについての概要をのべよう。

昭和47年度落葉果樹関係除草剤試験供試薬剤審査判定表

薬 剤 名 (種類 商品名)	剤型	有効成分及び含有率	委 託 者 (メーカー)	作物名	試験担当場所名	新・継の別 (剤 型)	今回 判定
1.DPA・DCMU・MCP { DPA・DCMU・MCP	粒	[DPA] 3,4-ジクロビ ロピオン酸ナトリウム 10% [DCMU] 3-(3,4-ジ クロロフェニル) 1,1 -ジメチル尿素 3% [MCP] 2-メチル4- クロロフェノキシ酢酸 ナトリウム 3% 全 16%	石 原 産 業	ぶどう	山梨県試, 香川 農試府中分場	新 (剤 型)	規 継?
2.E H - 2 7 5 { ターバシル・DCMU ゾーバー	水和	[ターバシル] 3-ターシ ャリーブチル-5-5 クロル-6-メチルウ ラシル 40% [DCMU] 3-(3,4-シ クロロフェニル) 1,1 -ジメチルウレア 39.3%	デュボン・フーイ ースト 日本支社 丸和バイオ ケミカル	も も	山形園試, 福島 園試, 山梨果試 岡山農試	継 続	実
3.dichlobenil (DBN) { DBN カソロン	粒	2,6-ジクロロベンゾニ リル 6.7%	兼 商	な し	鳥取果試	新 (メーカー違い)	規 実
4.M O N - 3 9 { グリフォセート ラウンドアップ	乳	N-(ホスホノメチル) グ リシニソプロピルアミン 塩 43%	日本モンサント	ぶどう	園試安芸津支場 山梨果試, 石川 砂地農試, 愛媛 果試	新	規 継

薬 剤 名 { 種 類 名 商 品 名 }	剤 型	有効成分及び含有率	委 託 者 (メーカー)	作物名	試験担当場所名	新継の別	今回 判定
5. S L T - 7 1 1	水和	モノクロロ酢酸ソーダ } 未合 DCPA } 有 NAC } 開 }	石 原 産 業 保土谷化学工場	ぶどう	山梨果試, 石川 砂地農試	新	規 継

昭和47年度落葉果樹関係供試生育調節剤審査判定一覧表

薬剤名 (試 試) (用途課題)	剤 型	有効成分および含有率	委任者(会社)	作物名	試験担当場所名 ()内は自主試験	新継 の別	今回 判定
1. A C P - 6 8 - 2 5 0 (エスレル) (着色, 熟期促進)	液	2-クロロエチル-ホスホ ニックアシド 480 g/ℓ	2,4-D協議会 [石原産業, 日産化学工 業]	か き (富有)	神奈川園試(愛知農総試験研 岐阜農試, 京都農試山城分場 和歌山県園試紀北分場, 香川 農試府中分場, 福岡園試	継	継
2. A C P - 6 8 - 2 5 0 (エスレル) (摘 蕾 剤)	液	2-クロロエチル-ホスホ ニックアシド 480 g/ℓ	2,4-D協議会 [石原産業, 日産化学工 業]	か き (富有)	(神奈川園試)(愛知農総試 園研), 岐阜農試(三重農技 センター), 滋賀農試(京都 農試山城分場), 和歌山県園 試紀北分場, 福岡園試	新	実継
3. B A (ベンジルアデニン) (処理適期中拡大) ＜ロジ＞	液	N ⁶ -ベンジルアミノプリン 3 %	クミアイ化学工業 味 の 素	ブドウ (デラウェア ア)	山形園試, 神奈川園試, 長野 農試桔梗ヶ原分場, 山梨果試 (石川農試砂地分場), 福井 農試領南分場, 大阪農技セン ター, (島根農事試験田分場) 岡山農試	継	実
4. B A (ベンジルアデニン) (花根へ及び着色 障害の防止) ＜ビニールハウス＞	液	N ⁶ -ベンジルアミノプリン 3 %	クミアイ化学工業 味 の 素	ブドウ (デラウェア ア)	山梨果試, 石川農試砂地分場 福井農試領南分場, 大阪農技 センター, 島根農事試験田分 場, (香川農試府中分場)	継	実
5. F - 2 (ツル徒長抑制・ 果実着粒増加)	水溶	未公開 80 %	三菱ガス化学	ブドウ (巨峰)	山形園試, (栃木農試), (神 奈川園試), (長野農試桔 梗ヶ原分場), 山梨果試	新	継?
6. F C - 9 0 7 (花根へ防止) ＜ロジ＞	液	N-N-N-トリメチル- 1-メチル-3-(2,6,6 -トリメチル-2-シクロ ヘキサノ-1-イル)-2- プロペニルアンモニウムア イオダイド 10 %	FC-907 研究会 [藤沢薬品工業 日産化学工業 クミアイ化学 工業]	ブドウ (巨峰)	(山形農試), 栃木農試, 神 奈川農試, 長野農試桔梗ヶ原 分場, 長野園試, 山梨果試, (大阪農技センター), 鳥取 果試, (島根農事試験田分場) (福岡園試)	継	継
7. F C - 9 0 7 (花根へ防止) ＜ウス＞	液	同 上 10 %	同 上	ブドウ (巨峰)	栃木農試, 長野園試	継	継
8. ア ト ロ ッ ク ス B I (耐雨性の効果判定)	液	ポリオキシエチレンヘキシタ ン脂肪酸エステル 50 %	日本ジベレリン 研究会 (協和醗酵工業)	ブドウ (デラウェア ア)	山形園試(神奈川園試), 長 野農試桔梗ヶ原分場, 大阪農 技センター, 島根農試浜田分 場	新	実継
9. ジベレリン+アトロックス B I (GA吸収促進・ GA散布処理)	水和 液	ジベレリン 3.1 % ポリオキシエチレンヘキ シタン脂肪酸 エステル 50.0 %	日本ジベレリン 研究会 (協和醗酵工業)	ブドウ (デラウェア ア)	山形園試, (長野農試桔梗ヶ 原分場), 山梨果試, (石川 農試砂地分場)	継	実継
10. ジ ベ レ リ ン (肥大促進効果)	水和	ジベレリン 3.1 %	協和醗酵工業	ブドウ (ヒロ・ハ ンブルグ)	岡山農試	新	継

薬剤名(試験) 〔用途課題〕	剤型	有効成分及び含有率	委任者(会社)	作物名	試験担当場所名 (内は自主試験)	新継 の別	今回 判定
11.ジベレリン 〔落果防止〕	水和	ジベレリン 3.1%	協和醸酵工業	カキ (富有)	(滋賀農試), 奈良農試, (和歌山農試), 鳥取果試 河原試地, (愛媛果試), 福岡農試	新	継
12.NB-18(メチオニン) 〔熟期促進〕	水溶	メチオニン: α -アミノ- γ -メチルチオオール-n -酪酸 80%	日本曹達	ナシ (二十世紀)	(園芸試験場木場), 神奈 川園試, 長野農試下伊那分 場, 石川農試, 鳥取果試, (福岡園試)	新	継?
13.NB-18(メチオニン) 〔熟期促進〕	水溶	メチオニン: α -アミノ- γ -メチル 80%	日本曹達	カキ (富有)	(園芸試験場), 神奈川園 試, 岐阜農試, 和歌山果園 試紀北分場, (香川農試府 中分場), 福岡園試	新	継?
14.アビオン-E200 〔GB流亡防止効果〕	乳化	パラフィン 36% 乳化剤, その他 64%	アビオン化学研 究所	ブドウ (デラウェア)	青森園試, 山形園試, 長 野農試桔梗ヶ原分場, 山梨 果試	新	継
15.アビオン-E200 〔実割れ防止効果〕	乳化	パラフィン 36% 乳化剤, その他 64%	アビオン化学研 究所	オオトウ (ナポレオン)	青森園試, 山形園試, 長 野園試, 新潟園試	新	継

I 除 草 剤

1. DPA・DCMU・MCP粒剤

ブドウのみで山梨果試, 香川府中分場の2場の試験であり, 前者での成績は除草後の再生を抑制するのに10a当り7~10kgで効果がみられるが, 畑が固くなる傾向がある。また香川の試験では草種により多少効果がみられるが, 殺草効果が弱いことを指摘している。本剤は刈取代用としては効果が低いので抑草剤としては検討の余地があるとして, 判定は継?とした。

2. EH-275水和剤(デュボン・ソーバー)

昨年度の試験ですでに実用をとっているが, 本年は低濃度の試験と薬害の点を重点に試験を実施した。モモを対象に福島, 山梨, 岡山の各県で試験を実施したが, 10a当り150g施用では47年度は長雨などの影響で効果が充分でなかった。200gなら概して殺草効果も高

く, 抑草期間も充分あると考えられる。また, 薬害はどの試験場でもみられない。昨年度同様10a当り200gで実用化とした。

3. DBN粒剤(カソロン粒剤6.7)

すでに実用化しているものであるが, 委託者の関係から本年はナシについて鳥取で実施した。ギンギン, スイバ, ヨモギなど宿根草に対し, 10a当り10kgで卓効がみられるが, タデには弱い。

しかし, 従来のものと同じように宿根草に対し, スポット処理として実用化可能と考えられるので, 実用化とした。

4. MON-39乳剤

47年度からはじまった新しい薬剤であるが, ブドウを対象に山梨, 石川砂丘, 安芸津支場, 愛媛の各試験場で試験した。

この薬剤は接触移行型で草種に対する選択性は広く, ヨモギ, ヒメジオン, カモデグサ, メヒシバ, ギンギンなどがかなり広い草種に殺草効果を示している。

ハマスゲ、ドクダミ、イヌタデ、には効果が低いようであるが、殺草効果の点、抑草期間の長いこと、などから刈取代用として実用化が期待できる薬剤といえよう。

ただ、愛媛での試験で50cc、120ccともに効果があることから濃度の点は再検討すべきであろう。

茎葉処理ではかなりの薬害がみられるが、土壌処理では薬害はみられない。

以上のことから、残留分析等の試験が揃えば実証とし、薬害、濃度についてさらに検討することとした。

5. S L T-711水和剤

ブドウを対象として、山梨果試、石川砂丘試で試験した。

10a当りの使用量の多いこと、展着剤の使用などワイドック乳剤に較べ使用しにくい点はあるが、効果がワイドック乳剤によく似ていることや、ところによっては効果の発現が早いことなどから、メヒシバの多い夏草用として使用できそうである。

また、ブドウに対しては薬害はみられない。以上のことから、亜急性毒性、残留分析等の成績が揃えば実証とし、実は10a当り5～7kgとし、薬量を減じ、草種についてさらに検討することを継続とした。

II 生育調節剤

1. エスレル液剤(カキの熟期促進)

カキ富有の収穫期間の延長をはかり、早期収穫をはかるため、エスレルの効果が期待できるので、神奈川ほか5場所の試験場で前年度に引き続き試験を行なった。

熟期促進については着色はじめ頃20～30

ppmの処理で効果がみられるが、ところによっては収穫後の日持ちがわるかったり、軟化のことが問題となり、処理時期についてさらに検討することにし、判定は継続とした。

2. エスレル液剤(カキの摘蕾)

カキの摘果労力軽減の一環としてエスレルの摘蕾の効果が期待できることから、岐阜ほか3県の農試で試験を実施した。とくに岐阜では普及所を通じての多くの実用化試験を実施しており、その効果の高いことから早く実用化が望まれている。

これらの点を考慮し、50ppmの満開5～10日前の処理で実とし、さらに処理時期、着果量との関係について検討することにし、判定は実証とした。

3. F-2水溶剤(ブドウ巨峰の着粒増加)

ブドウ巨峰は年により花振いがひどいので、生産が不安定である。これの防止法としてすでにB-ナインの利用が実用化されているが、これと同様の効果を期待して試験を行なった。山形、山梨、長野いづれの試験場の成績も効果ははっきりつかめていない。

以上のことから判定は継?とした。

4. FC-907液剤(ブドウ巨峰の花振い防止)

これも前項の薬剤と同じ目的で栃木農試ほか5場所の試験場で試験を行なった。

露地栽培での試験では、Bナインとは同等の効果が期待できるので、展葉7～8枚の時期に500～750ppmの散布で実用とし、花振いの多い年にはさらに試験を継続することにした。

なお、ハウス栽培においての試験は試験事例が少なく、Bナインより効果が劣ったり、濃度によっては薬害がみられるので、さらに継続し

て試験を行なうこととした。

5. アトロックスB I 液剤（耐雨性の検討）

ジベレリン処理によるブドウデラウェア種の種子なしを作り出すため、満開前7～14日頃ジベレリンを処理するが、その場合に降雨があると再処理が問題となるが、これをなるべく省くため、ジベレリン処理液に耐雨性を与えるため、アトロックスB I の試験がなされた。山形、山梨、長野桔梗ヶ原などの試験成績から、判定は実継とした。

実用は0.3%の濃度を前処理のみに使用することにし、後処理には使用しないことにし、処理後4～5時間以内に降雨があった場合はジベレリン単用で処理することとした。

継続とした理由はジベレリンの後期処理に使用する場合の濃度、また処理によるサビ果の発生も問題となったので、低濃度の検討がのこされているからである。

6. ジベレリン水和剤+アトロックスB I 液剤（ジベレリン散布試験）

ブドウデラウェア種に対するジベレリン処理は一般に浸漬処理による方法がとられており、その処理労力確保が大きな問題となっており、その省力化のため散布方法が考えられるが、薬価の点からこれも問題である。そこで、ジベレリンの濃度を低くし、しかも吸収をよくするため、アトロックスB I 加用の試験が行なわれた。この試験は一昨年から継続して行なわれたものであり、これらの試験結果を参考にし、判定は実継とした。

実は1回目処理、2回目処理ともにジベレリンの濃度100ppmにアトロックスB I 0.3～0.5%加用することにし、継続はジベレリンの濃度を低くすることとし、アトロックスの濃度並びに散布量についても検討することにした。

7. ジベレリン水和剤（ブドウヒロハンプルグ肥大促進）

ブドウヒロハンプルグの果粒肥大を目的としたジベレリン処理試験であるが、本年度は岡山農試のみの試験であり、その効果はかなり期待できるが、試験年数の不足などもあって、引きつづき検討することとし、判定は継続とした。

8. ジベレリン水和剤（カキ落果防止）

富有ガキ産地では授粉樹の混植が行なわれ、人工授粉なども多く行なわれているが、その省力化と落果防止をかねてジベレリン散布の試験を和歌山、奈良、鳥取の3県農試で行なわれた。鳥取以外は一応効果はあるが、はっきりしないところと効果がみられないところがあった。しかし、鳥取河原試験地では明瞭な効果をもとめており、しかも、同農試では鳥取大学との協力で数年来この試験を実施し、その顕著な効果をもとめている。

そこで、黒ボクのような火山灰土で、生理落果も多く、若樹の間の雄花の着生がわるいところでは充分効果があることをまとめ、火山灰土で生理落果の多い地帯では満開後10～15日頃200ppmの散布で実用とし、濃度、時期についてはさらに検討することとなり、判定は実継とした。

9. NB-18水溶剤（ナシ熟期促進）

NB-18は食品添加物であるメチオニンであり、それが植物体に対し、エスレルと同じ効果をもつことから、二十世紀ナシの熟期促進に効果があるか、どうかについて神奈川ほか3県農試で試験したが、何れもはっきりした成績が得られなかった。したがって、判定は継続？となった。

10. NB-18水溶剤（カキの熟期促進）

エスレルと同じようにカキの熟期促進に期待

がもてるかどうかということで、神奈川県試はか3県の試験場で試験した結果、1000ppmなら少し効果がみられるが、はっきりしないという報告から、効果がほとんどないとの成績もあって、全体として明瞭でない。したがって、判定は継続となった。

11. アピオンーE200 (ジベレリンの 流亡防止)

降雨によりジベレリンの再処理を防ぐため、アトックスよりすぐれた効果を期待して試験が行なわれた。

青森畑作園試はか3県農試の試験結果では山梨果試が100倍なら効果があるといった以外、効果が劣るといったのが大部分であった。したがって、判定は継続とした。

12. アピオンーE200乳化剤(オウトウの 裂果防止)

オウトウの収穫前の降雨による裂果はオウトウ栽培上大きな問題となっているので、これを防ぐ方法として本薬剤が使えるかどうかを山形園試、新潟園試、および青森畑作園試で試験した。その結果、山形は効果をみとめていないが、あとの2場所はOEDグリーンよりも効果が高いといっているが、果皮の光沢がにぶることを指摘している。

したがって、濃度、散布時期などについて再び検討することとし、判定は継続とした。

13. ベンジルアデニン液剤(ジベレリンの処 理適期幅の拡大)

種子なしデラウェアをつくるために、ジベレリンを開花前10日～14日頃第1回目を処理するが、この幅をもう少し伸ばし、処理適期を拡大して労力の分散をはかる目的で山形園試はか6試験場で試験した。

何れの試験場も-B-A剤添加による早い時期か

らの処理は効果があることをみとめられ、検討の結果、濃度100ppmで普通のジベレリン処理適期の3～4日前に使用することで実用と判定した。

14. ベンジルアデニン液剤(ハウスブドウの 花振り防止)

これはすでに実証をとっている薬剤であるが、この点をさらに確認する意味で山梨はか5場所の試験場で試験した。その結果は何れも効果がみとめられたので、実用と判定した。

すなわち、その使い方はつぎのとおりである。

- (イ) ハウス栽培で花振いの常に発生するデラウェア種にのみ使用する。
- (ロ) 処理の時期はB-A剤添加しないものよりも早目(3日程度)に処理する。
- (ハ) 濃度は100～200ppm。
- (ニ) 前処理のみ使用する。
- (ホ) ハウス初年度は使用しない。

Weed List in Asian-Pacific Area

[実費頒布中]

★雑草名を学名・英名・日本名別に整理したもので、目下編集準備中ですが、この中間印刷物を印刷実費(800円)で頒布しております。希望者は、下記にお申し込み下さい。

植調編集印刷事務所

東京都港区芝愛宕1-3第9森ビル全農協内